

# 2023年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 氏名 松浦 愛子

## 〈 研修概要 〉

2月25日から3月7日までの12日間、ベトナム研修に参加しました。チョーライ病院では5日間の研修、フエ医科大学では2日間の国際交流プログラムを経験しました。さらに、チョーライ病院の診療放射線技師の方々とフエ医科大学の学生との交流を通して異文化理解を深めました。

## 〈 研修参加の目的 〉

本研修に参加した目的は2つあり「自身の国際的な視野を広げて将来の選択肢を増やすこと」と「積極的な行動力と実践的な思考力を養うこと」です。異国の診療放射線技師や診療放射線技師を目指す学生との交流から新しい価値観や知識が得られれば、将来の選択肢を広げられると思いました。また、高校生の頃に参加したアメリカ研修や昨年の韓国の新丘大学放射線学科の学生との交流を機会に、国際的な交友関係を築きたいと思うようになりました。そのためには、積極性や自分の考えを伝える力を磨き、オープンマインドな自分を実現し、自身の持つ人見知りな性格を改善することが必要であると感じていました。本研修では、自発的な会話や発言が求められる状況に強制的に身を置くことになるため、積極的に行動力を鍛えることに繋がると考えました。加えて、環境の変化や偶発的な出来事に柔軟に対応することが苦手であり、文化・価値観・習慣が異なるベトナムで臨床研修を通して実践的な思考力を養い、物事の変化を多角的に予測する力を身に付けたいと思い、本研修に参加しました。

## 〈 研修で学んだこと 〉

### チョーライ病院での研修

チョーライ病院はベトナム南部最大の公立総合病院であり、遠方からも非常に多くの患者が訪れ、院内は患者で溢れかえっていました。このような状況でも黙々と効率的に業務を遂行され、多忙な業務の合間に優しい言葉をかけて教えてくださるチョーライ病院の診療放射線技師の方々の姿に感銘し、忙しくても心に余裕がある診療放射線技師になりたいと思いました。心に余裕を持つためには、業務を緊急度と重要度で正しく優先順位付けし、タスクを俯瞰して把握することが重要と考えます。このような習慣を身につけられるように、日常生活でもタスクを俯瞰して把握することを常に意識したいと思いました。研修初期は英語で質問することに不安や抵抗がありましたが、チョーライ病院のスタッフ



▲チョーライ病院での臨床実習

の方が優しく声をかけてくださり、研修期間を通して緊張せずに気軽に英語で質問できました。チョーライ病院の方々の優しさに触れ、私も心配りができる人になりたいと感じました。また、日本とは異なり、患者接遇や被曝低減は重視されていない印象を受けましたが、患者がそれに不満を持つ様子はありませんでした。これは単に優劣の問題ではなく、日本とベトナムでは求められる診療放射線技師像が異なるためだと思います。日本では患者接遇や被曝低減が重視されますが、ベトナムでは検査効率が最優先に考えられていました。検査効率の向上と正確な撮影の両立には熟達した技術が必要です。日本でも病院ごとに求められる診療放射線技師像は異なると思いますが、臨機応変な対応力とそれを可能にする確かな技術力を身につけたいと思いました。さらに、研修中はマンモグラフィーの実習でCCとML0のポジショニングを経験できました。患者で座学の知識を実践でき、大学の講義で学んだ撮影理論を実践的な視点から理解できました。マンモグラフィー検査と一般撮影検査を同時対応する非常に多忙な中、私たちの指導に時間を割いていただいた診療放射線技師の方々に感謝する一方で、様々な業務を並行して正確に遂行する力が必要だと感じました。同時に様々な業務を行う診療放射線技師にマルチタスク能力は必要不可欠であると思います。しかし、マルチタスク能力に欠け、大学の課題や1人暮らしでの家事などを並行して進められず、これら1つ1つの遅れが全体の遅れや停滞に繋がっています。診療放射線技師として臨床で働く将来を見据え、日常生活からマルチタスク能力を鍛えたいと思いました。また、研修中はホーチミン医科薬科大学の学生も臨床実習を受けていました。先方の学生は単独で撮影や静脈注射を患者に実施しており、日本の臨床実習内容との違いに驚きました。ベトナムでは診療放射線技師は国家資格ではないため、入職直後から診療業務に従事するためだと知りました。学生から実務経験を積み、臨床の診療放射線技師と遜色なく業務にあたる彼らを見て自分の無力さを痛感しました。私は、実務経験はおろか知識すら乏しいので、まずは基礎知識の習得から始めようと思いました。



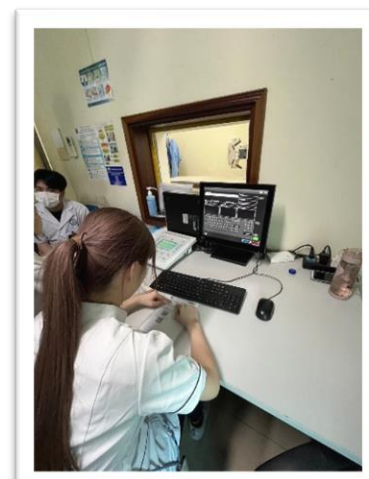
▲チョーライ病院スタッフとの交流

### タンアン総合病院での研修

本研修ではチョーライ病院だけではなく、タンアン総合病院でも研修を受けました。タンアン総合病院は最新医療の提供を理念に掲げ、主に富裕層をターゲットにした私立病院です。雑然としたチョーライ病院とは異なり、タンアン総合病院の院内は清潔に保たれ整然としていました。同じベトナムの病院でも公立病院と私立病院では理念と雰囲気が大きく異なることを学びました。日本でも病院ごとに異なる特徴があるため、勤務する病院の理念に沿った医療を提供できる診療放射線技師になりたいと思いました。

### フエ医科薬科大学附属病院での研修

フエ医科薬科大学では一般撮影検査で患者接遇を経験しました。多くの患者さんは嫌がらずに外国人学生である私たちに体を預けてくださいました。そのおかげで胸部立位正面撮影のポジショニングを経験でき、ベトナムと日本で撮影方法が同じであることを学びました。私たちが学ぶ機会を与えてくださった患者さんに感謝いたします。ホーチミン医科薬科大学の学生同様、フエ医科薬科大学の学生も難無く診療業務にあたっていました。彼らの姿を見て、講義内容を単なる知識で終わらせるのではなく、臨床で活用できる実践的な知識に昇華できるように勉学に励む必要があると痛感しました。臨床現場を想像し、座学の知識を活用して問題解決策を考える習慣を付ければ、実務経験が無くても達



▲フエ医科薬科病院での臨床実習

成することが可能であると考えます。そのため、講義で得た知識を昇華させ血肉化するために、この習慣を日々の勉強に取り入れたいと思いました。

### チョーライ病院の診療放射線技師の方々やフエ医科薬科大学の学生との交流

チョーライ病院のスタッフとの welcome party では、緊張して上手く話せない私たちに優しく声をかけてくださり、ベトナム式の乾杯を教えてくださいました。Farewell party ではご家族やベトナムの食文化についてお話しさせていただき、さらに交流を深めました。また、私のグラスが空になるとすぐに飲み物を注いでくださり、皿が空くとすぐに料理を取ってくださりました。フエ医科薬科大学の学生も私たちに常に気を配り、親切な対応をしてくれました。これらの経験から、私も視野が広く気遣いできる人になりたいと思いました。

フエ医科薬科大学における初日の交流プログラムでは、日本の文化・医療と本学紹介に関する英語プレゼンテーションとよさこい“よっちょれ”を200人以上の聴衆の前で披露しました。緊張しましたが大きな問題もなく終わられました。海外で、大勢の前で、英語で発表をするのは非常に貴重な経験だと思います。研修に参加するまではあまり親交が無かったメンバーもいましたが、縁があって参加者に選ばれたメンバーで結束して納得できるプレゼンテーションとよさこいを作り上げることができて嬉しかったです。役割分担をし、自身の課題をこなすことや常にグループ内で情報共有を行った結果ではないかと考えます。日本での研修報告も皆で協力して良いものを作り上げたいと思いました。この経験から、互いに意思疎通を取り合うこと、および個人の役割を明確化することの重要性を学びました。また、目標の共有は団結力に繋がることがわかりました。病院組織の一員として勤務する際に、この学びを活かしたいと思いました。

フエ医科薬科大学の交流中は彼らのバイクで様々なお店に連れて行ってくれました。バイクに乗ったのは初めてでしたが、快晴の空の下で街を走るのはとても気持ち良く楽しい経験でした。移動で通った橋について、フランスとの戦争中に物資や装備を輸送するために建設されたものだを教えてくれました。ベトナムの方々には自国の文化や歴史に詳しく愛国心があると感じました。「故郷の写真を見せて」と先方の学生に言われたときに、自分の故郷にあまり興味がなかったことに気づき、日本や故郷の歴史や文化を学びたいと思いました。就職活動や国家試験の勉強の傍ら、時間を作ってこれらについての知識を深めたいと思いました。

### 〈まとめ〉

本研修では忘れられない学びと出会いを得ました。先方の学生は実習中にも関わらず私たちをたくさんもてなし、素敵な思い出を共に作ることができました。本研修に参加して得た縁なので、この交友関係を今後も大切にしたいと思いました。また、本研修の全てが初めての経験であり、ベトナムの文化や価値観に触れて視野が広がりました。本研修で得た経験を将来設計の糧にしたいです。研修前は英語での会話に自信がなく、消極的な性格から輪に入れるか不安でしたが、現地の方々の優しさのおかげで杞憂に終わりました。さらに、伝えたいという思い



▲チョーライ病院のスタッフとの welcome party



▲プレゼンテーション発表

があれば、乏しい英語力でも十分に会話が成立することを学びました。両国の学生に求められる力や学ぶ知識が違う中でも彼らの明るさや積極性に大きな刺激を受け、目標の「積極的な行動力を養う」ことは達成できたと感じています。また、現地の診療放射線技師のような正確で迅速な業務遂行力や患者への対応力を身に付け、診療放射線技師として患者の役に立ちたいと強く思いました。

#### 〈 謝辞 〉

多忙な臨床業務の傍ら研修を受け入れ、学ぶ機会を与えてくださったチョーライ病院とタンアン総合病院の診療放射線技師の方々、フエ医科薬科大学の先生方と学生たちに深く感謝申し上げます。楽しく安全に引率していただいた松尾悟教授、水田正芳教授、霜村康平講師、石田翔太助教、並びに準備から手厚く支援していただいた職員の村上さん、藤尾さんに感謝申し上げます。また、本研修で関わった全ての皆様に心より感謝いたします。



▲フエ医科薬科大学学生との交流



▲グループディスカッション